

資料館だより

2024年 春号

contents

館長あいさつ	1
イタイイタイ病の教訓を次世代へ	2
トピックス	2
四大公害病を語り継いでいくために	3
イタイイタイ病資料館運営会議	3
ニュース	4
資料館インフォメーション	4

令和6年
2月18日(日)

「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」開催!



新田八朗富山県知事挨拶



射水市中太閤山小学校の児童が発表



野田八嗣館長事業報告



富山県立大学の学生が発表



富山市立杉原小学校の児童が発表



京都橘大学岡田知弘教授特別講演

天災と人災



2024年の元旦に発生した能登半島地震で亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

災害には、天災と人災があります。天災は、暴風・地震・落雷・洪水など自然界の変化によって起こる災害ですが、今回の能登半島地震では甚大な被害が発生しました。日本の防災科学の先駆者で物理学者かつ随筆家で俳人でもあった寺田寅彦（1878-1935年）の名言に「天災は忘れた頃にやってくる」があり、1923年の関東大震災の後に講演会で語った警句とされています。最近では、1995年阪神淡路大震災、2011年東日本大震災、2016年熊本地震そして今回の能登半島地震と頻繁に大きな地震が発生していますが、このような大地震は、ある程度復興し気が緩んだ頃にやっ

富山県立イタイイタイ病資料館 館長 野田八嗣

る印象があります。地震など災害が多いわが国では、常に命を守るための防災・危機管理をしておく必要があると痛感させられました。今後は、国を挙げて被災地域の復興促進と更なる防災対策に努めなければならないと思います。

一方、人災は、人間の不注意や怠慢などによって起きる災害であり、イタイイタイ病などの公害も広義の人災と言えます。人災は、天災とは異なり発生自体を防ぐこともできます。当資料館は、イタイイタイ病の悲惨な公害の実態と教訓を伝え継ぎ、このような公害が二度と発生することがないように発信していく重要な役割を担っております。これからの若い世代に、「国栄えて山河なし」とはならないよう、自然と環境を守り生命や健康を大切にすることがいかに重要かを伝えていかねばならないと思っております。

イタイイタイ病の教訓を次世代へ

2月18日（日）に「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催しました。会場に100人とオンラインで20人の参加がありました。

新田知事の挨拶の後、次代を担う若者たちによる発表では、射水市立中太閤山小学校5年生の児童7人が、イタイイタイ病患者とその家族が偏見や差別に苦しんだことを寸劇で表現し、「病気を理由に差別することは絶対にしない」と訴えました。次に、富山市立杉原小学校5年生の児童13人は、戦後の産業発展の裏で苦しみ続けたイタイイタイ病患者とその家族の思いを寸劇で表現し、「語り部の方から学んだことを今後も伝えていきたい」と訴えました。発表の3番目、富山県立大学看護学専攻科公衆衛生看護学専攻の学生3人は、公害が発生したときは、住民が不安になり、誹謗中傷が生まれやすいとして、「情報を正しく判断し、発信していくこと、住民の思いに寄り添い、よく聴くことを大切にしていきたい」と決意を新たにしました。

引き続き、野田館長が当資料館の今年度事業を報告しました。

フォーラムの後半は、京都橋大学経済学部教授・京都大学名誉教授の岡田知弘先生に「地域開発と公害の歴史から何をどのように学ぶか ～四大公害訴訟判決から半世紀～」の演題で特別講演をしていただきました。イタイイタイ病と四日市公害の歴史をたどりながら、四大公害訴訟が経済的利益よりも、人間らしい文化的な生活を優先する時代に大きく塗り替えたことなどを話されました。一方で、公害問題の歴史の風化が課題であると訴えられました。参加者は興味深く聴講していました。



射水市立中太閤山小学校の児童寸劇の演技



富山市立杉原小学校の児童寸劇の演技



富山県立大学看護学専攻科
公衆衛生看護学専攻の学生の発表

参加者の声

劇やスライドでイタイイタイ病によって引き起されたことがとても分かりやすく、劇をされた方の思いがよく伝わりました。（会場 小学生）

講演は、学術的でイタイイタイ病と四日市公害のケースを比較して紹介され、大変興味深かったです。（会場 50歳代）

子供たち、学生の方々の目に、イタイイタイ病がどのように捉えられているのかが、生で伝わりました。直に拝聴するからこそ、「私にできることは何か」を考えさせられました。（会場 60歳代）

子供たちの寸劇は、素直な気持ち、感想をうまく表現されていました。指導教諭のアドバイスも的確であると感じました。（会場 60歳代）

小学生2校の児童が一生懸命演じてくれて感動しました。県立大学の学生は、素晴らしい保健師になってくれると感じました。（会場 70歳代）

小学生の劇も良い出来でした。特に原因企業の立場に立った考え方の紹介が良かったです。（オンライン 50歳代）

今回の講演会は、今まで拝聴した中で一番よく理解できました。ありがとうございました。（オンライン 60歳代）

トピックス 健康パーク運動体験をしてみませんか

健康のきっかけづくり

健康づくりの大切さや健康的な生活習慣を身につけることの重要性を、楽しく分かりやすく学べる運動体験です。とやま健康パークの健康運動指導士が、体操やゲームをとおして、脳や筋肉に刺激を与え、気軽に運動を楽しむことができるようにします。小学生から大人まで、健康づくりについて体験し学ぶことができます。

今年度も多くの小学生が健康パークの講師の指導を受けながら運動を体験しました。



氷見市立窪小学校



富山市立朝日小学校

参加者の声

ほくは、運動体験をして、毛糸転がしなどをして楽しかったし、とても簡単だったので、家でもできてよかったです。

運動体験をして、「前」と言われたら「後ろ」と言いながら前にとんだりする体験が楽しかったけれど、おもしろかったです。

たくさん体を動かして楽しかったし、ボールを投げて運動したり体全体で運動したりするなど、楽しみながら運動できました。

ほくは、運動体験でボールを投げ合う運動が、一番楽しかったです。

久しぶりに運動をして、みんなで楽しく体を動かせたのでよかったです。

四大公害病を語り継いでいくために

●「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催しました。

10月21日（土）、四大公害病（水俣病、新潟水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病）各資料館の語り部が富山県に参集し、「四大公害病の語り部講話を聴く集い～語り部による伝承会～」を開催したところ、55名の参加がありました。

前半の語り部講話では、「水俣市立水俣病資料館」の語り部永本賢二さんが、胎児性水俣病と認定され、偏見や差別に苦しんだ自分の生き立ちについて語られました。特に小学校の時に、友達から「賢ちゃん、何でも補償金で買えていいね」と言われ、嫌な思いをしたエピソードが紹介されました。

「新潟県立環境と人間のふれあい館」の語り部小町ゆみ子さんは、自分に偏見や差別の目が向けられないようにと、母は自身が水俣病に認定されていることを隠していたことを語られました。「母が亡くなってから認定手帳を見つけた」というエピソードが紹介されました。

「四日市公害と環境未来館」の語り部伊藤三男さんは、四日市公害にかかわる経緯を語られました。1972年の判決で、被告企業6社は基準をぎりぎり守っていたとはいえ、現に被害者が出ていることから、その時の裁判長は、「経済性を度外視」した公害防止対策が必要と判決しました。この判例は、他の公害裁判に大きな影響を与えたと話されました。

「富山県立イタイイタイ病資料館」の語り部高木勲寛さんは、1972年8月9日に住民側が完全勝訴した要因として、公害に対する世論の高まりやマスメディアの力があつたこと、そして、弁護団が鉱業法109条を適用したことなどを説明されました。また、その後、所謂カドミ腎症の救済についても、「名より実をとった」ことについて語られました。

後半の意見交換会では、4人の語り部の方にイタイイタイ病対策協議会小松雅子会長と当資料館野田館長を加え、「語り部活動の継承に向けて」と題して、交流しました。

語り部の方から、次世代の人々に自分たちが経験した嫌な思いをさせたくないという気持ちから、語り部活動の継承に向けて、次の提案がなされました。

- ・公害だけでなく、戦争も起きないように働きかけたい。
- ・親が子供を気遣い、水俣病隠しを行った。偏見や差別がなくなるように継承したい。
- ・中高生にも語り部の体験を共有する機会があればよいが、まず小学生へと考えている。



永本賢二さんと村崎副館長



小町ゆみ子さん



伊藤三男さん



高木勲寛さん



野田館長と小松雅子会長

四大公害病 各資料館の語り部さん



意見交換会

- ・イタイイタイ病の作文コンクールを現在小学生向けに行い、実績をあげてきている。今後、語り部、解説員の養成も実現していきたい。
- これらの提案を受けて、会場から次のような意見が出されました。
- ・学生に公害のことで授業を行うと、公害の原因や被害者・加害者の立場等について、深く探求する姿が見られた。自分は語り部にはなれないけど、語り手として役に立てるのではと考えている。
- ・病の苦しさだけでなく、偏見や差別をも問題としているところがよかった。
- ・日本だけでなく、世界の各地でも川の汚染の問題などがある。未来において、改善して行ってほしい。
- 最後にまとめとして次のことが話されました。
- ・語り部の方を「資料館の魂」と考えている。四大公害病の語り部の方にここでしか聞けないことを話してもらうことが今後の伝承・継承の核となると思う。
- ・四大公害病の語り部が一堂に集まるこの機会を今後も継続していきたいという思いを強くした。

イタイイタイ病 資料館 運営会議 12月12日(火)



この会議は、鏡森定信資料館名誉館長を座長とし、環境省黒羽真吾室長をオブザーバーに迎え、各委員の方から、当資料館の運営を円滑に行うため、運営に関する事項や事業実施に関する事項について協議することを目的としています。

当日は、各委員のそれぞれの立場から、率直な意見が出されました。

【委員の主な意見】

- ・資料館の展示物や語り部講話をとおして、高校生に探究させたい。
- ・県内の小学生全員にぜひ資料館を見学してもらいたい。教育委員会と連携してほしい。
- ・子供だけでなく、一般の来館者も増やしていくことが大切である。農業協同組合や労働組合組織等に声をかけていくとよい。また、県内の公民館、図書館にパンフレットを置いてもらい、啓発することも考えられる。
- ・SDGs関係の団体で、知識を得るだけでなく、意見を交流する要望も高まってきている。資料館でもワークショップ等でディスカッションを取り入れる機会をつくれぬか。
- ・当館の解説ボランティアに対する研修と活躍する機会が必要である。

神通川清流環境賞の表彰式がありました



最優秀賞の7名



意見交流会

「神通川清流環境賞」の表彰式（神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会とイタイイタイ病対策協議会が主催）が、2月23日（金・祝）にとやま健康パーク生命科学館特設会場で行われました。

6回目となる清流環境作文コンクールには、校外学習などで当資料館を訪れた小学生などから1248点の応募があり、選考審査の結果、個人賞部門で最優秀賞7名と優秀賞20名の受賞者に表彰状と盾、記念品が贈呈されま



した。また、学校賞の小学校2校と学級賞の45学級が表彰されました。

最優秀賞の内、高学年の3名が自身の作文を読み上げ、意見交流会では、次のような環境への思いを述べていました。



- ・一つの工場の一つの間違いで人々が苦しんだ。間違いを少しでも減らしたい。
- ・地域の方とホテルを観察する取組みに参加することで環境の大切さを実感した。
- ・環境の大切さを知るだけでなく、自分にも簡単に楽しくできる取組みをしていきたい。
- ・コンポスト（堆肥づくり）やサーキュラーファーム（衣料を肥料として土に還す畑づくり）など、できることから少しずつ環境によいことを実行したい。
- ・立山連峰の雪の大谷や雪解け水、富山湾の魚など、富山ならではの貴重な自然を守っていきたい。

資料館インフォメーション

令和5年度 下半期の行事経過

令和5年

10月21日(土) 四大公害病の語り部講話を聴く集い
～語り部による伝承会～

12月12日(火) イタイイタイ病資料館運営会議

令和6年

2月18日(日) イタイイタイ病を考える県民フォーラム

令和6年度 上半期の行事予定

4月26日(金)～5月6日(月・祝)

春の特別企画展

4月29日(月・祝) 春の特別講演会

6月下旬 語り部・解説ボランティア研修会

7月下旬 夏休み自由研究講座

8月上旬 イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー

8月下旬 イタイイタイ病資料館活用研修会

※詳細については、ホームページ等でお知らせいたします。

○語り部講話の聴講者を募集しています

資料館を団体（原則10名以上）で見学される場合には、事前に申込みいただくと、イタイイタイ病に関して貴重な体験をされた語り部さんの講話を聴くことができます。（来館される3週間前までにお申し込みください。）

※詳細は資料館ホームページをご覧ください。

春の特別講演会

演題「日本の主な鉱害の対策史を診る」

講師：鏡森定信イタイイタイ病資料館名誉館長

日時：4月29日(月・祝) 14:00～

春の特別企画展

テーマ「残された写真から振り返るイタイイタイ病」
未公開写真を中心にパネル展示します。

期間：4月26日(金)～5月6日(月・祝)

場所：イタイイタイ病資料館

※いずれも無料です。詳細については、資料館ホームページ等でお知らせします。

課外学習サポート事業の利用校募集のお知らせ

令和6年3月26日(火)より募集を開始します!!

今年度も多く児童・生徒・学生にイタイイタイ病について学んでいたため、学校等に「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業（環境省委託）」を実施します。

資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。また、近接する「四季防災館」を見学する場合は無料区間が延長され、より利用しやすい内容となっています。

高速料金については、学校の所在地が朝日町、入善町、黒部市、氷見市、小矢部市及び南砺市の場合のみ無料送迎バスの対象になります。

利用条件など詳細については、資料館までお尋ねください。

○メールマガジン登録者募集中

資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaitai-dis.jp】